

1257(正嘉元)年と1293(正応六)年の鎌倉大地震

—史料による相模トラフ巨大地震の再確認—

石橋 克彦(神戸大学名誉教授)

§ 1. はじめに

石橋(地震学会講演予稿集, 1991年度秋, p.251)は地震史料から, 1293(正応六, 改元して永仁元)年鎌倉大地震が相模トラフ北半のM8級プレート間地震だろうと指摘した. Shimazaki *et al.* (2011)はこの頃の津波堆積物を報告している. 地震調査委員会(2014)は歴史地震学的検討を十分おこなわず(石橋, 1991も参照せず)に, この地震をM8級プレート間地震と認定した. しかし, 1257(正嘉元)年にも鎌倉大地震があって地震像が未解明だから, 史料地震学的には両者をセットで再検討したうえで結論を出す必要がある.

§ 2. 1257(正嘉元)年の鎌倉大地震

『吾妻鏡』によれば, この年八月二十三日(J暦10月2日)の20時頃に鎌倉を大地震が襲った. 右表のように, 余震と思われる地震, 物的被害, 液状化的現象が記されている. 同書は13世紀末頃に成立したと推定される鎌倉幕府前半期に関する編年体史書で, 欠落や誤りが少なくないのだが, 同書とは独立の日蓮自筆『安国論御勘由来』(1268年執筆)に「正嘉元年太オ丁巳八月廿三日戌亥時超於前代大地振」と書かれているので, この日時の大地震が確定する.

この地震以降の災害の続発が日蓮の『立正安国論』の契機となったことから大震災とされ, 『日蓮聖人註画賛』の絵が震災の惨状を伝えるようにいわれるが(例えば, 鎌倉国宝館, 2015), この絵は16世紀に描かれた想像画にすぎない. 『吾妻鏡』の地震後の記事では, 地震前からの懸案だった大慈寺の修理供養, 勝長寿院の再建が進行しており, 死者は出たかもしれないが大災害だったようには思えない. 御所も, 南側・東側の築地の崩れだけが問題だったようである. 建長寺では開山・蘭溪道隆が地震の翌日に法堂に上って説法したが(例えば, 佐藤・館, 2014), 「昨夜の地震は私の杖が悟りを開いたからだ」といった内容で, 同寺の被害は大きくなかったと推測される.

山名(1896)が岩手県宇部村(現, 久慈市)の項で「正嘉元年地震アリ八月二十三日野田海ト久慈ノ海ト津浪越へタリト云」と書いているのを宇佐美・他(2013)は「疑わしい」としているが, 『吾妻鏡』とは独立の伝承かもしれない. 無視できないのではないだろうか.

§ 3. 1293(正応六)年の鎌倉大地震

四月十三日(J暦5月20日)朝5時頃の本地震については, 将軍・執権の護持僧・親玄自筆の『親玄僧正

日記』が現存する. 京都の『実躬卿記』も自筆本があり, 共に一級史料である. 他に各種年代記等に参考記事がある. これらは下表のような事実を伝える. 表の記事以外に, 不確実ながら, 『箱根七湯の枝折』が伝える小田原辺の死者と, 古寺が全壊したという平塚市宝珠院の伝承がある(石橋, 1991).

§ 4. 1257年正嘉地震と1293年正応地震の比較

下表中に限り, 旧暦の年月日を算用数字で記す.

事項	1257年, 正嘉1.8.23	1293年, 正応6.4.13
鎌倉地動	大地震, 有音	大地震, 数刻に及ぶ(実躬卿記の伝聞記事)
有感範囲	京都記録なし, 久慈市宇部で有感?	実躬卿記の「及暁天地震」が京都有感を示唆
余震と思われる地震	25小動5,6度, 9.4地震, 是日まで小動止まず, 10.16地震, 11.8大地震8.23の如し	14小地震時々刻々間断なし, 16時々刻々地震間断なし, 18地震時々不興感, 17,19,20,21甚だしい地震あり, など
津波	久慈市宇部・九戸郡野田村に津波?	「浜辺鳥居辺死人140人」が津波によるか?
物的被害	全社寺が損傷, 山崩れ・倒壊家屋あり, 全築地破損, 御所築地は南・東のみ崩れる, 地裂・液状化あり	堂舎人屋多く顛倒, 御所・若宮も, 建長寺転倒炎上, 山崩れ大慈寺埋没, 寿福寺顛倒, 律院は恙なし?
人的被害	吾妻鏡は死者に言及せず, 江戸期の地震勘例のみ「人死」と記す	上下死者幾千人を知らせず, 関東分23,034人, 打殺さる者1,700余人, など

§ 5. 議論と結論

宇佐美・他(2013)は, 1257年地震をM=7.0~7.5, 震源は相模湾内の鎌倉付近, 1293年地震はM=7.0としている. しかし1257年は, 三陸の津波を無視しなければ, 房総沖辺りの可能性もあるのではないか. ただしM8級相模トラフ北半地震ではないと推定される.

1293年地震は, 被害が1257年より格段に激しく, 有感域が広がったと推測され, 「以っての外」の大震災や長時間揺れる地震(以っての外に久し)が続発していて, M8級プレート間地震という石橋(1991)の指摘は妥当と思われる. ただし, 津波を直接表す記述はない. また『親玄僧正日記』永仁元年分の全翻刻(ダイゴの会, 1994)を見ると, 新地震もあるが, 1923年関東地震ほどの余震活動は記されていないようである(四月廿二日の平禅門の乱などの政局の影響もあるか?). 地震調査委員会(2015)は国府津-松田断層の最新活動も1293年地震に対応するとしているが, 史料地震学的には何の証拠もない.